

# 平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	(1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成
2 現状の分析	○基本的生活習慣の充実を目標に、全校体制で遅刻防止指導に力を入れてきたキャンペーン活動「遅刻0週間」を「遅刻0習慣」へとさらに推し進めた。この結果、落ち着いた学習環境が確立され、遅刻者数は着実に減少している。 ○基礎学力向上を目指し、始業前に10分間の朝学習時間を設けた。基礎学力判定テストにおいて有意な効果が認められた。 ○本年度「次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発」（3年間指定）の研究協力校の指定を受けた。初年度は工業高校生として必要な基礎学力の向上と定着を目指した指導方法の開発にむけ、情報収集と先進校視察等を実施し、今後の研究の方向性を検討した。 ▲生徒個々の学力差が大きく、クラス内・学科間において実態把握と細かな指導が必要となっている。
3 学校の抱える課題	・地域に貢献できる工業技術者の育成を目指した高校として、社会のニーズと生徒の進路希望の両立を図る必要がある。 ・地元企業から優秀な人材を望まれる一方、コミュニケーション能力や基礎学力不足の生徒への指導の在り方。 ・多様化する生徒に対し、個別に合理的な指導方法を作成し、かつ全職員で共通理解を図る必要がある。 ・部活動や資格取得などの授業以外の諸活動において、よりいっそう意欲的な取組みが求められる。 ・生活習慣や環境、学習能力の格差が大きい生徒に、挨拶や身だしなみ、マナーやルールなどの規範意識の向上を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	1. 逞しく生き抜くための基礎学力の定着と、専門知識・技能の習得を図る「チームワークでつくる可児工の確かな教育力」 2. 社会人としてのマナーやモラルを身につけた生徒の育成「生徒のことを思いやる心と共感的な生徒理解」 3. 地域社会や地域産業から期待され、信頼される学校づくり

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎基本の定着を徹底する ②授業改善を目的に研修を充実	①診断テストの実施 ②生徒アンケートの分析	①基礎学力診断テストの分析 ②公開授業週間や職員研修の開催	B B	○基礎学力定着に向けた診断ツールの効果的な活用	A B C D
キャリア教育 進路指導	①進路ガイダンス機能の充実 ②主体的な進路選択意識の醸成	①就職希望者全員の内定確保 ②就職進学活動の積極性	①外部講師の協力を得て5回以上実施 ②進路選択に明確な目標を持たせる事	B B	○ガイダンスや体験が進路意識の高揚	
生活指導 コミュニケーション能力 の育成	①多様な生徒に対応できる、指導法の研修と実践 ②基本的な社会マナーの定着	①個人のスキルアップと組織としての指導力の向上 ②外部からの評価	①問題行動の減少と退学者の減少 ②各種イベントへの積極的な参加	B A	○多くの生徒が積極的に取り組む姿勢が目立った ▲学業や校務との両立	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月1日

・地域の行事に積極的に参加するなど、地域に密着した工業高校としての役割を果たしている。  
 ・地域や企業、保護者に信頼される学校であり、本校の良さをホームページなどで積極的に発信する。  
 ・基礎学力向上のための効果的な在り方を全職員で共有し、実践する。

12 来年度に向けての改善方策案

・多様な生徒対応のため、支援員や外部との連携を図り、教育相談体制を強化する。  
 ・魅力ある授業を目指し、指導法の工夫や授業改善に向け職員研修を充実させる。  
 ・基礎学力の向上のために朝学習及び授業の在り方を検討する。  
 ・生徒の意欲を引き出す効果的な評価の在り方を、学校活動全般に位置づける。